



地域共生応援大使
ふっころ

アナタとフクシを結ぶコミュニケーション誌

福祉だより 信州

社会福祉法人長野県社会福祉協議会 ふれあいネット信州 <https://www.nsyakyo.or.jp/>

vol.810
NOV.2023

編集・発行
長野県社会福祉
協議会



CONTENTS

ちいきとあなたと、ともに暮らす…………… 2P

周囲の専門職や地域と連携を図りながら
患者さん自身の力を信じ、寄り添った相談対応を

特集 地域におけるソーシャルワーク力の強化に向けて
あんしん未来を創造するため学び人、語り人、
そして変(革)人になろう…………… 4P

ふっころ Information…………… 7P

あんみら通信…………… 8P



じぶんの町を良くするしくみ。

赤い羽根共同募金

今年も募金運動が
はじまりました。
ご協力をよろしく
お願いいたします。





周囲の専門職や地域と連携を図りながら 患者さん自身の力を信じ、寄り添った相談対応を



毎号、福祉の現場に新しい風を吹き込む
スタッフをご紹介します。

国立病院機構まつもと医療センター
社会福祉士・医療ソーシャルワーカー
はにう ひろこ

羽生 浩子さん

時代のニーズに応じ、医療と福祉の連携体制構築を積極的に進める「まつもと医療センター」。医療ソーシャルワーカー（MSW）の羽生浩子さんは、周囲の医療専門職や地域のさまざまな人と協力し、生活や家族の課題などを抱える患者さんの相談対応、退院支援を行っています。

ソーシャルワークの視点から心理的なケアもできる存在に



1



2



3



4

12患者さんの状況はケース・バイ・ケース。中には身寄りがなく救急搬送されてくる人も。羽生さんは周囲の協力体制を大切にしながら、一人ひとりに応じた相談対応を行っている。

34大学で地域住民と共に福祉施設を作ったゼミの先生のもとで学び、特別養護老人ホームや在宅介護支援センター、老人保健施設等での勤務を経て、2017年に現職となった羽生さん。子育てでしばらく仕事を離れ、キャリアを中断した経験が、時間を惜しんで勉強する現在の熱意につながっている。

個々に応じた寄り添い方を

地域医療支援病院である「まつもと医療センター」には、心理的・社会的問題を抱えて入院や通院をしている患者さんも少なくありません。羽生さんはそうした人たちに寄り添い、周囲のMSWの助言も受けながら、主治医や看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、栄養士などのカンファレンスで情報共有し、外部の精神科の医師や、時には事務職員とも連携を図って相談対応や退院支援を行っています。

「心がけているのは、こちらが何かをしてあげるのではなく、患者さんご本人が本当に必要としていることを考えること。隣に座って時間を共に過ごし、相手の状況を感じながら、生活背景や大切にしてきたことなどを聞き、日々の様子もよく見えています」。中には若くして病に冒され、生きる意欲を失っている方も。その心境を理解し信頼関係を築くために、羽生さんは日々勉強して研修等にも参加し、より良い支援になるよう努めています。

「私たちができることはわずかですが、ちょっとした言葉かけで、元気をなくした方が自分の力で立ち直っていく過程を見るとうれしいですね」

ある時は、長く塞ぎ込んでいた患者さんの話を聞き、多面的な視点からできることを探して提案したところ、自身の力で仕事に至るまで回復したとのこと。

「『誰かの役に立てることが嬉しい』」との言葉を聞いた時は、時間はかかっても起き上がる力は患者さんの中にあると喜びを感じました」

多職種と連携した幅広い支援

院内は他職種とのコミュニケーションがととても取りやすい環境で、周囲の良好な人間関係が、羽生さんの日々の大きな支えになっているそうです。さらに、入退院の前後には、患者さんの生活を支えるケアマネジャーや地域包括支援センター、行政機関、場合によっては地域の開業医、民生委員などにも連絡し、必要な支援につなげる役割も果たしています。退院後の状況のほか、最期を迎えた場合はその様子も聞くようにしていると。

「長い時間を一緒に過ごしているケアマネジャーや地域の方は、私たちの知らない面もよく知っていて、つながりの大切さに気付かされることが多いですね」

そんな羽生さんの目標は、心理的なケアもできるソーシャルワーカーになること。もともと人の最期に関わる仕事をしたいと思っていた羽生さんにとって、いつかは幅広い分野で活躍している仲間と共に、安心して最期を迎えられる場づくりをすることが夢だそうです。そのためにも心理学系の勉強やコソ研（4・5P参照）での学びを深め、さらに経験を積みたいと語る笑顔は、穏やかながらも強い情熱を宿しているようでした。

国立病院機構まつもと医療センター

【住 所】松本市村井町南 2-20-30

【電話番号】0263-58-4567

<https://matsumoto.hosp.go.jp/>

ホームページ



コミュニティにおけるソーシャルワーク力強化研修・長野2023

あんしん未来を創造するため、 学び人、語り人、そして変(革)人になろう

【講師一覧】

上野谷加代子氏（同志社大学名誉教授）
空閑浩人氏（同志社大学社会学部教授）
野村裕美氏（同志社大学社会学部教授）
原田正樹氏（日本福祉大学学長）
川島ゆり子氏（日本福祉大学社会学部教授）
室田信一氏（東京都立大学人文社会学部准教授）
渡辺晴子氏（広島国際大学健康科学部准教授）
井上信宏氏（信州大学経済学部教授）

【特別ゲスト】

大塚眞理子氏（長野県看護大学学長）
北村千章氏（清泉女学院大学教授）

8月31日から9月2日まで、地域におけるソーシャルワーク力を高めたい方を対象に、「コミュニティにおけるソーシャルワーク力強化研修・長野2023」（「コン研」）を開催しました（主催：長野県社会福祉協議会）。コロナ禍でもオンラインで開催し、今年で5年目となったコン研。地域共生社会の実現に向け、ソーシャルワークの機能を体系的にとらえたうえで、ミクロ（個人・世帯）、メゾ（地域・組織）、マクロ（社会・制度）に働きかけるための知識、方法、技術などを学び、個々のワーカーとしての実践力及び各組織のソーシャルワーク力を高めることを目指しました。

学び人、語り人、そして変(革)人に

研修冒頭、コン研のプロデューサーである上野谷氏が受講者に呼びかけたのは、「異なる職場、職域、立場、また私的にも様々な経験を持つ皆さんですが、この3日間は、一緒にソーシャルワークを学ぶ「学び人」であり、対話する「語り人」であり、そして自分と社会を変革しようとする「変(革)人」になりましょう」ということでした。個別の生活課題が社会環境との関係にあってより複雑になるなか、困っている人たちの感情に触れ、共感するための知識と情感を学び、仲間や地域の方、相談者とも対話を重ねながら、社会的状況（環境）を変えていくことがソーシャルワークであることを示してくれました。



オープニングトーク 上野谷氏

気づきから物語と戦略による 社会アプローチへ

1日目は、私たち一人ひとりの「気づき」について理解を深め、気づきのかけらから地域課題へ展開をするときに、「物語と戦略」をもって地域のなかに集団的変化を生み出し、社会へのアプローチを可能にすることを理解しました。川島氏、室田氏、空閑氏の3氏からの講義・演習では、



講義・演習Ⅰ 川島氏

それぞれに各講義の内容をふまえ、ミクロからメゾ、そしてマクロへと連続したソーシャルワークのストーリーとして学ぶことができました。

分野や時間を超えて学び、 次世代へ伝えるために

2日目は、原田氏から、伴走支援には時があること、「時は来る、その時が来る、その時を待てるか」という



講義・演習Ⅱ 室田氏



講義・演習Ⅲ 空閑氏





応援メッセージ 原田氏



講義・演習Ⅳ 渡辺氏



講義・演習Ⅴ 井上氏



講義・演習Ⅵ 野村氏



特別講演 大塚氏



特別演習 北村氏



クロージングナラティブ 野村氏、上野谷氏

「時の支援」についてお話をいただき、ソーシャルワークにおける「時」の概念を考える時間となりました。

そのうえで、渡辺氏の講義・演習を通じ、私たちが学び、獲得してきたソーシャルワークの理念、価値、そして知識や技術などをどのように次世代につないでいくかについて考えました。

大塚氏からは、「暮らしを支える」という視点から分野を越え、地域において福祉職が看護職と協働するため、LIFE のトータルな把握（生命－生活－人生）と「人々の尊厳を守る」という価値の共有の必要性をお話いただきました。北村氏の演習では具体的に、医療的ケアが必要な子どもの生活を支える場面における協働について学びました。

3 日目は井上氏より、「フューチャー・デザイン」の考えを学び、ミニワークショップを行うことで将来世代の視点を獲得することを体感しました。

コソ研の最後のまとめでは、野村氏より、課題を抱える人の「目に見えない部分」をあるがままに受け止め、エンパワメントしていくことの重要性を学びました。

受講者の振り返り

受講者の振り返りを行うための事後課題に記載された内容から、研修

後の実践に確実な変化が生まれていることが読み取れました。コソ研が実践者に勇気と希望を与えたことがわかります。

〈受講者の学びの声〉

▶ 研修前は、色々あってもうしんどい、辞めたいと思う日々でしたが、先生方の講義の一つひとつに学びと元気をいただき、自分なりに地域でなにができるか考え始めました。

▶ ソーシャルワーカーとして活動していくための勇気をこの三日間でたくさんいただきました。改めてソーシャルワークの奥深さ、やりがい、充実感に気づかせていただき、また気持ち新たに立ち向かうことができます。

▶ 今まで、制度がこう変われば良いのになど受け身でしか考えられていませんでしたが、私たちが制度や社会をより良いものに変えていかなければいけないこと、また、自分自身も学び等を通して変化し続ける意志を持ち続けることが大事なんだと気付かせてもらえました。

▶ ソーシャルワーカーってカッコよくて誰にとっても大事な仕事なんだなと実感でき、誇らしい気持ちになりました。これからは悩むことはあると思いますが、立ち止まらずに学びと実践を続け、「あんしん未来」を創っていきたいと思います。

▶ 社会からの孤独、孤立を防ぐソーシャルワーカー自身が、答えのないソーシャルワークに迷い孤独、孤立を感じることもあります。この研修はそんな迷っている時の道しるべ的存在だと思います。コソ研がこれからも迷える私たちソーシャルワーカーの進むべき道を照らしてくれる灯台でありますように。

今こそソーシャルワークの時代

コロナ禍の経験を経て、「今」こそソーシャルワークがそれぞれの地域で求められると空閑氏は話されました。実践者と研究者が、お互いに学び合い、磨き合い、高め合うため本研修をこれからも実施したいと考えています。



日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和5年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
コチラから
(ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

保険金の種類		基本プラン	天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円		
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		
	手術 保険金	入院中の手術 65,000円 外来の手術 32,500円		
	通院保険金日額	4,000円		
	特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外(*)	初日から補償	
	地震・噴火・津波による死傷	×	○	○
賠償責任	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)		
	年間保険料	350円	500円	550円

*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆特定感染症重点プランでは中途加入の場合でも補償開始日より特定感染症が補償対象となります。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの交替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉

損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ22-12223より抜粋して作成)

令和5年度

社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、
障害者支援施設、
児童福祉施設などに

スケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します!

◆加入対象は、社協の会員である
社会福祉法人等が運営する社会
福祉施設です。

プラン1

施設業務の補償

(賠償責任保険、動産総合保険等)

① 基本補償(賠償・見舞)

保険期間1年

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉

損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

プラン1

オプション5

施設の感染症対応費用補償

休業補償から各種対応費用までワイドな安心

- ①休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
- ②消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
- ③感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

プラン2

施設利用者の補償

プラン3

職員等の補償

プラン4

法人役員等の補償



(SJ22-12033から抜粋)

11月11日は介護の日

「いい日 いい日 あったかいぞ ありがとう」

2023

ふっころフェスティバル

2023

11/11土

信州の介護と地域をもっと元気に!

イオンモール松本 (きらめきコート ほか)

オープニング
ライブもあるよ!

10:15~12:00

ケアコン2023表彰 優れた技術とあったかエピソードを語ろう

対 談

スケッターで、
信州の介護と地域を
もっと元気に!



長野県知事
阿部守一 氏



(株)プラスロボ代表
スケッター
鈴木亮平 氏



介護福祉士・白梅学園
大学福祉研究員
上条百里奈 氏

13:00~15:00

ふくしのお仕事体験
フクシニア参加者募集!

車いす移乗、お食事介助体験等

eスポーツ

飛び入り対戦!

手軽に楽しく体を動かす体験等

イラスト: ヤボンスキーこばやし画伯

中町商店街・中町蔵シビック館 ほか

福祉のしごと
フォトコンテスト

小学生・中学生・高校生が
福祉施設で撮影した「あり
がとう」の瞬間を展示しま
す。こどもたちが撮った場
面をお見逃しなく!!



第72回長野県社会福祉大会(四柱神社)

詳しくは、長野県社会福祉
協議会のホームページを
ご覧ください



長野県

〔1日目〕諏訪市文化センター 〔2日目〕長野県福祉大学校

まちづくりボランティアフォーラム 2023

2023

12

1日金~2日土

地域への想い、活動への想いを伝え、広げ、
つながり、深め合う。そんなフォーラムにします。
今年は諏訪市で開催。詳細はチラシ、
ホームページ等にてお知らせします。

お申し込み



プログラム チラ見せ(予定)

1
日
目

〔第1部〕シンポジウム
〔第2部〕「明日につながる入口」
① “幻燈〜く” 県内まち歩きから見てきたこと
② サスながのが行く!
〜防災・企業・社協交流会〜情報交換会

2
日
目

6つの分科会
まとめセッション

【分科会(予定)】

- 諏訪ブロック社協プレゼンツ!
「ボランティア交流研究集会
簡単ルールでポッチャ体験リーグ戦」
- チーム TAG(多頭飼育問題をあきらめないグルー
プ) プレゼンツ! 「住民の力、ボランティアの力、
人間と動物の関係を考える」
- 諏訪圏 JC×サスながのプレゼンツ!
「企業とまちづくりと防災について(仮)」
その他にも…福祉大学校から世代間交流の企画、障
害があっても“あきらめない”誰もが楽しめる地域
づくりについての企画、子ども若者についての企画
等を予定しています。

【お問合せ】

長野県社会福祉協議会
まちづくりボランティアセンター
TEL: 026-226-1882

Mrs of the year 長野大会事務局様から ご寄付をいただきました

9月13日に Mrs of the year 長野大会事務局様から、
3万円のご寄付をいただきました。今後の生活困窮者支援、
交通・災害遺児支援等の事業のために活用させていただきます。

(写真) 右: Mrs of the year 長野大会事務局 代表 河合 波美 様
左: 長野県社会福祉協議会 常務理事 竹内 善彦





制度の狭間にある個別の課題に気づき、多様な仲間と共有し、
未来志向の発想で共に考え、課題解決に向けて実践。
そんな取り組みを紹介します。



まいさぽ×多文化共生センターの連携 ～長野県多文化共生相談センターについて～

本年度、長野県社協では、長野県多文化共生相談センターと連携し、県内の外国人相談の課題や外国人の生活困窮等の課題について実態を把握し、両機関の協働による、外国人相談支援機能の強化を目標としています。



長野県多文化共生相談センター
〒380-0936
長野市新田町 1485-1 もんぜんぶら座 3F
TEL: 026-219-3068 / 080-4454-1899

長野県多文化共生相談センター

外国人県民等の皆さんの様々な相談等に応じていますので、いつでもお気軽にご相談ください。(無料)

● 17 言語で対応

中国語、ポルトガル語、タカログ語、韓国語、ベトナム語、タイ語、英語、インドネシア語、スペイン語、ネパール語、マレー語、ミャンマー語、フランス語、クメール語、ドイツ語 ほか。

いくつかの言語は電話通訳やポケットークにて対応します。また、ウクライナ語にも対応します(予約制)。

● 利用できる日

第1・第3水曜日を除く平日(月～金) + 第1・第3土曜日の10時～18時

● 弁護士、入管相談にも対応

- ・毎月第4木曜日、弁護士相談(令和5年度)
- ・長野県弁護士会への相談依頼(随時)
- ・毎月第3木曜日、東京入管担当者来所

● ZOOM や SNS での相談も可能

Facebook、Instagram、WeChat、WhatsApp、LINE など



『日記』

作者：刈間 一幸 (51才・東筑摩郡在住)

偶然知り合いから何冊ものノートを見せてもらった。それらのノートにはびっしりと日記が書かれている。自閉症スペクトラムの障がいを持つ人で、独特のカチカチとした書体で、執拗なほど同じような文章を繰り返しばっちり書き込む人に出会う。

刈間さんはある入所施設に暮らしているが、その日にやった作業、行ったところ、食べたもの、などの出来事を書いている。そのページ、行を埋め尽くすことを使命としているかのように。〇〇へ行ってきた、〇〇の仕事をした、という文の中にまるでイタズラでもしたかのような感じで『〇〇を食べちゃった。』というかわいい文章も差し込まれている。そして『ヨクデキマシタ!』とばかりに、自分を自分で褒めるかのようにいろんな色で力を入れて丸が書かれている。今日も使命を果たしたかのように日記を書いているのだろう。『ヨクデキマシタ! マル!』と。

(ながのアートミーティング 関 孝之記)



Webサイトもご覧ください!

ご感想・お問合せ・掲載希望等は
下記へお寄せください

長野県社会福祉協議会 総務企画部 企画グループ
TEL 026-228-4244/FAX 026-228-0130
E-mail info@nsyakyō.or.jp

